第 2015-20 号

恵みと真理のニュース

2015 年 5 月の三次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

[証]

今まで私が生きた事も主の恵みである。
また、私を本郷に導いてくださり。

私の故郷は北朝鮮のケソンです。6月25日に韓国で避難を来ました。私が幼い頃経験したことです。
特別に頭が良かった兄が勉強して頭が変になりました。母は兄のため様々な努力をしました。兄のため様々な病院を探し民間療法を全部4手見ました。しかし、家計が経るだけで何の役にたたなかったです。その時隣り人に積極的に伝道され教会に行くようになりました。
教会で牧師の聖徒と共に私の家で来て兄の病気が治るため期間を決めて礼拝を捧げました。私の家族も共に礼拝して切に祈りました。すると驚くな奇跡が起きました。最後の日礼拝が終わったって嘘のように兄が健康になり回復しました。全ての家族が嬉しい限りで生きておられる全のなる神様に感謝して賛美して祈りした牧師と教会と聖徒達にも感謝の挨拶をしました。
ブサン　で避難して来た後大変な頃はただ神様だけを信じる力で一日を行きました。主が下さった全ての苦難を克服する事が出来ました。青年になり結婚したが、旦那は過去熱心に偶像崇拝をした人でした。旦那は新婚の時約束した事をまもらなくて熱心に神様を信じる私を強く迫害しました。すると急に心臓麻痺で亡くなりました。神様を信じなかったらその時をどう生きたか今も振り替えてみると神様の恵みであり強く導いてくださった神様に感謝と愛の涙がでます。

神様の摂理でアンヤンで引越しして生活するようになりました。知り合った区域長の助けで恵みと真理教会の聖徒になりました。礼拝を捧げることに説教をとおして受ける恵みが新しくて充満で全ての礼拝に休まずに参席して聖歌隊で奉仕し始めました。息子のためにも熱心に神様祈りました。
神様の恵みの中で生きている中で良く疲れて病院に行ったら子宮癌の診断を受けました。初めは心が痛くて前が見えなかったです。幼い息子達をおいて死ぬことは出来ませんでした。それで神様に祈りました。“神様今まで大きい愛でその驚くな能力で守ってくださいました。もう一度守ってください。病気を治してください。治療の奇跡の救いの恵みを与えてください。神様を仰ぎました。”
原子力病院に入院して手術を火を受けましたが私の血圧が高くて手術が後回しました。教会で区域の聖徒達が共に祈ってくださいました。するとすぐ私の血圧が正常に戻って手術受けることが出来ました。手術も神様の恵みでよくできました。
病院でいるあいだ祈り室で“アメイジング・グレイス　われをも救いしくしき恵みまよいし身もいま。たちかえりぬ。この身は衰え 世を去るとき喜びあふるる 御国に生きん。”
患者家族と歌う賛美が恵みになり力と希望になりました。
3ヶ月ぶりに退院しました。初めは周りの人々が私を見てもう死ぬと手術を受けても延命するだけだと言われました。そのときの体重は40kgにもならないぐらい病弱でした。医術も今のようではなかった時です。そして多くの人たちもそのように考えたと思います。しかし、全能なる神様は人々の考えが間違えたとすぐ悟るようにしてくださいました。ハレルヤ！
病気が治った後主に栄光を捧げて熱心に礼拝中心で行き聖歌隊で奉仕しました。そのあいだ神様は息子によい配偶者を与え孫も与えてくださいました。それだけでなく私に教会の200宣教合賛美団の一員となり有名なアメリカニューヨークのカーネギー・ホールでまた、アメリカの韓国教会で神様を賛美する恵みを与えてくださいました。長時間飛行機に乗って9泊10日間かけて長い期間でしたがけんこうで少しも無理にならなかったです。当時こんな事もありました。聖歌隊員達がナイアカラ滝を見物するためバースに乗っていく途中雨がたくさん振りまいた。ややもすれば 滝の光景を見ないところでした。車の中で聖歌隊員のすべてが一つの心で神様の奇跡を願なら祈りました。すると雨がやんで窓の外で美しくきれいな虹が見えました。真の感動で恵みの光景でした。
証を書いて嬉しくこと、悲しい事過ぎた多くの事が掠めます。大変で耐えられない事がある時神様は私を強くしてくださいました。いつも私と共にしてくださいました。多くの恵をときによって与えて下さり神様の恵みと愛を私がどう返す事が出来ますか。返されないのでただ感謝してまた感謝し賛美します。神様は私に健康を与えて下さり長い間聖歌隊員で賛美を捧げるように祈りそして、主は私を呼ぶその日“世であなたは良く生きた。”という主の褒め言葉を聞くように祈り神様に全ての栄光を捧げます。

[信仰コラム]　安っぽい福音?

“すなわち、すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなっており、 彼らは、価なしに、神の恵みにより、キリスト・イエスによるあがないによって義とされるのである。”（ローマ人への手紙　3:23,24）

人々から見られるあらゆる無知と誤解の中で一番悪くて有害なことは福音に対する無知と誤解です。 これは人生を悲劇にならせるからです。 端的に言って人間としての生まれそのものが悲劇にならせます。 福音と言うのはイエスキリストによる救いの消息です。 救いの真理すなわち福音を安っぽい福音、安い福音で思う人々がいます。 このような人々が誰でそれによる結果が何やらよく見ます。

第一に、福音を安っぽい福音で誤解するから福音をばかにするとか拒否する人々がいます。 イエスキリストを信じることだけで罪の赦しを受けて天国に入るということはとても単純でたやすい事であるから受け入れることができないと思います。 一般的にどんな事物を取得するためには相当な対価を支払います。 仮に貨幣ではなくてもどんな努力や功労が必要です。 ところで罪人が神様に容納受けて天国に入る途方もない事がただイエスキリストを信じることだけでなるというのはとても安っぽい教理であるから成立されることができないと思います。 修養、苦行、慈善の行為などの功徳が要求される他の宗教に比べれば合理的がならないと判断してしまいます。

二番目で、福音を安っぽい福音で誤解するから教会に通ってから易しく離れる人々がいます。 救いの福音はイエスキリストのあがないの死を通じてくださったのです。 決して安っぽい救いではないです。 教会に通ってから離れてしまう人、ともすれば試験入ったと言ってイエス様を信じないと言う人、信じると言うが誘惑と逼迫そして患難が迫って来れば後に退く人はイエスキリストによる救いがいくら大きくて貴重なことなのかを分からなくて安い救いで誤解しているからです。

三番目で、福音を安っぽい福音で誤解するからイエスキリストを信じると言いながらも神様の光栄を逆らう仕事をほしいままにする人々がいます。 人の行為が霊魂を生まれかわらせることはできないが生まれかわった人には行実に変化ができるようになります。 生きて行きながらますます言行に肯定的な変化が持続されて聖潔した実を結ぶことが自然なのです。 信仰生活の年輪の進んでも朽ちるの旧習を従うむかしの行為がそのままあって、世俗的性向の欲心を持って行って多くの人の指弾を受けて神様の光栄を逆らってそのまま行ったら確かに問題があります。 果して真実の信仰があるかを疑うしかないです。

四番目で、福音を安っぽい福音で誤解するから福音を間違って信じて伝える人々がいます。 福音は安っぽい福音ではないです。 イエスキリストのあがないの恵みが何が不足で人間の行為、功労、業績をもっと加えなければなりませんか? その恵みで満たします。 そこに何をもっと加えなければならないと信じるとかその恵みに代わりをすることがあると信じる人は救いを得ることができないです。 福音は人々が嫌やがろうが好きであるか神様が啓示なさったとおり、聖書どおり伝えなければなりません。 そのようにしなくて人々の興味に合わせた福音を作り出して混雑する福音を伝えれば彼は偽り予言者です。 また聖書どおり信じなくても教会生活を通じて、宗教生活を通じて多い仕事をしたそれが保障になると言う人々は救いを得ることができないです。
神様がくださる義と永生と天国はイエスキリストを信じる者に恵みであたいなしにくださるのです。 あたいなしにくださることであると言って安っぽいの、安いではないです。 到底に人間としてはその何を与えてからも買うことができないしその何か行為でも得ることができない無限な価値を持ったことであるから　ただ神様の独り子イエスキリストのあがないという途方もない犠牲によって恵みでくださるのです。 神様の要求事項は一つしかないです。 このような事実が分かって空き手を上げて 来て全面的にイエスキリストを信じる人だけが救いを得るようになります。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

異言言うのを禁じない

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

今日は異言に関して詳らかによく見ます。 新約聖書で異言に関してまず記録された所はマルコによる福音書 16 章です。 復活したイエスキリストが昇天なさる前に弟子におっしゃるのを “そして彼らに言われた、「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ。信じてバプテスマを受ける者は救われる。しかし、不信仰の者は罪に定められる。信じる者には、このようなしるしが伴う。すなわち、彼らはわたしの名で悪霊を追い出し、新しい言葉を語り、”(マルコによる福音書 16:15～17) と言いました。 この約束のお言葉は現在型になっています。 このような標的がこれからいつも現在的にあることを意味します。 使徒行伝 1 章に記録されるのを “そして食事を共にしているとき、彼らにお命じになった、「エルサレムから離れないで、かねてわたしから聞いていた父の約束を待っているがよい。すなわち、ヨハネは水でバプテスマを授けたが、あなたがたは間もなく聖霊によって、バプテスマを授けられるであろう」”(使徒行伝 1:4,5) しました。 聖霊の臨むことと異言に対するイエス様のお言葉が約束どおり成り立つ場面が使徒行伝に記録されています。 多様な人々が多様な時間と場所と状況で聖霊にバプテスマを受けたし異言を言いました。

先に、使徒行伝で信者が聖霊受ける場面をよく見ます。

一番目の場面は使徒行伝 2 章にあります。 イエスキリストが約束した聖霊降臨を待って祈祷に専念した 120 余名の弟子に五旬節の日に聖霊が臨みました。 彼らは “御霊が語らせるままに” 他の異言を言いました。

二番目の場面は使徒行伝 8 章にあります。 ペテロとヨハネがサマリャ人々に按手すると聖霊が臨みました。 これを見た魔術師シモンがその能力をお金払って買おうと思いました。 この時シモンを魅かせた標的は異言に推理されます。

三番目の場面は使徒行伝 9 章にあります。 パウルはダメセックに行った途中に強烈な光の中で現われたイエスキリストに会いました。 そしてダメセックで聖霊を受けました。 パウルはコリント人への第一の手紙 14 章 18 節で言うのを “わたしは、あなたがたのうちのだれよりも多く異言が語れることを、神に感謝する。” しました。 この言葉はパウルが聖霊で充満するようになった時に異言を言うようになったことを暗示しています。

四番目の場面は使徒行伝 10 章にあります。 ペテロが百卒長ゴネルリョの家に集まった人々に福音を伝える時彼らに聖霊が臨んだし彼らは異言を言って神様を高めました。

五番目の場面は使徒行伝 19 章にあります。 パウル使徒がエペソの人々にバプテスマを与えた後に按手したら彼らの上に聖霊が臨むので異言も言って予言も言いました。
以上のように使徒行伝に記録された聖霊を受ける五つ場面で三度は聖霊を受ける時に異言を言ったという明らかな証拠があります。 残り場合にも異言を言ったことに推定される状況的証拠があります。

しかし聖霊バプテスマを受ければ必ず異言で言うようになると断定することができないです。 ただ偏見を捨ててよく見れば聖霊バプテスマを受ける時一番多く現われる現象が異言だと話す事ができます。

異言に対する非聖書的な見解と主張に対してよく見ます。

第一、コリント人へえの第一の手紙 12 章に記録された聖霊の賜物の中に異言と異言通訳の賜物は終わりに記録されているからあまり重要ではない賜物という主張です。
　その主張は正しくないです。 記録されている手順がその大切さの順番を意味すると断定することができないです。 神様がくださる賜物はすべて珍しいのです。

第二、異言は外国語の中に一つという主張です。 聖霊の賜物としての異言は学んで悟ることができる外国語ではないです。 もし誰がまねをすると言えばそれはまねであるだけであって異言の賜物を受けて言うのではないです。 五旬節日 120 人余りの弟子が聖霊を受けて異言を言ったがこれに関して記録するのを “すると、一同は聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、いろいろの他国の言葉で語り出した”(使徒行伝 2:4) しました。 コリント人への第一の手紙 14 章 2 節に説明するのを “異言を語る者は、人にむかって語るのではなく、神にむかって語るのである。それはだれにもわからない。彼はただ、霊によって奥義を語っているだけである。” 言いました。 宣教活動に関する記録の中には彼が学ばない外国語をいくらの間に言って福音を伝えるようになる奇妙なことに関する話があります。 このような場合は外国語を言ったことであって聖霊の賜物である異言を言ったのではないです。

第三、異言は同じ単語を意味なしに繰り返すことに過ぎないという主張です。
こんな主張は正しくないです。 全世界人々が使う言語の種類は 3 千個以上だと言います。 ところで自分が全然聞いて見られなかった言語をきけばいくつにならない単語にだけ言うことのように聞こえるようになります。 異言は異言通訳の賜物が与えられる時の外には聞き分ける人がいない言葉であるから一言二言単語のみを繰り返すことで聞こえるようになります。

その次では、異言で言えばどんな有益があるかをよく見ます。

第一、異言は神様と霊的に深い交通ができさせてくれます。
コリント人への第一の手紙 14 章 2 節に記録されるのを “異言を語る者は、人にむかって語るのではなく、神にむかって語るのである。それはだれにもわからない。彼はただ、霊によって奥義を語っているだけである” と言いました。 異言は人間の霊が聖霊の直接的な影響の下に置かれて発声することになるのにその言葉の意味は他人だけではなく異言する自分も分からないです。 しかし異言を言う者はその霊で神様に秘密を言うようになります。

第二、異言は異言を言う人の信仰を進めてくれます。
コリント人への第一の手紙 14 章 4 節に記録されるのを “異言を語る者は自分だけの徳を高めるが、預言をする者は教会の徳を高める。” と言いました。 異言は個人の霊的な徳性を高く積む手段になります。

第三、異言通訳がある時には異言が教会の徳を立てさせます。
異言は言う人やきく人がその意味が分からないです。 その霊で秘密を言うからです。 しかし聖霊が通訳する賜物をくだされば聞き分けることができる言葉に通訳することができます。 異言を通訳すれば神様のお言葉を伝達する予言のような効果を得るようになります。

第四、異言は私たちの霊が祈祷と賛美をする手段になります。
コリント人への第一の手紙 14 章 14 節と 15 節に記録されるのを “もしわたしが異言をもって祈るなら、わたしの霊は祈るが、知性は実を結ばないからである。すると、どうしたらよいのか。わたしは霊で祈ると共に、知性でも祈ろう。霊でさんびを歌うと共に、知性でも歌おう。” しました。 私たちは日常使う言語で祈って賛美します。 ところでそこに加えてたとえその意味が分からなくても神様に秘密を言う異言で祈って賛美したら私たちの信仰生活はもっと深くて豊かになります。

五番目、異言を言う時に私たちの心霊がさわやかさと安息を得るようになります。
長い時間を疲れないで言える祈祷が異言祈祷です。 私たちが祈る時に表現方法を探すようになれば限界点に到達するようになります。 これ以上祈る言葉もいなくて心も疲れるようになります。 異言祈祷は霊にする祈祷であるから私たち心霊がくたびれないでさわやかさと安息を得るようになります。 霊にする異言祈祷は大変ではなくていくらでも長くすることができます。

終りに、異言を言う人が留意する事項をよく見ます。

第一、異言で代表祈祷をしてはいけないです。
“異言を語る者は、人にむかって語るのではなく、神にむかって語るのである。それはだれにもわからない。彼はただ、霊によって奥義を語っているだけである” (コリント人への第一の手紙 14:2) しました。

第二、異言で説教しようと思ってはいけないです。
“しかし教会では、一万の言葉を異言で語るよりも、ほかの人たちをも教えるために、むしろ五つの言葉を知性によって語る方が願わしい。” (コリント人への第一の手紙 14:19) しました。

第三、異言祈祷と異言讃尿は時と場所によって適当にさせなければなりません。
皆が大きく声を出して祈るとか皆が異言祈祷をする場合には気を使うまでもないが、他の人々が黙想で祈っている所で音を高めて異言で祈ることは適切ではないです。 そして格別に大きい音で異言祈祷をすることも適切ではないです。

教会のリーダーは聖霊の現われるによった賜物を禁止させる事をしてはいけないです。 神霊な賜物を分別してくれて、聖霊の賜物を適切に活用するように指導してくれなければなりません。 パウル使徒は信者が礼拝の集まりで異言を言う場合に留意しなければならないいくつかの点を教えました。 そうしてみるときく者等が誤解して異言に対して拒否感を持つようになる恐れがありました。 だからこんな誤解を遮断するために “わたしは実際、あなたがたがひとり残らず異言を語ることを望むが、” (コリント人への第一の手紙 14:5) しました。 そして “わたしは、あなたがたのうちのだれよりも多く異言が語れることを、神に感謝する” (コリント人への第一の手紙 14:18) しました。 それからは断固たる口調で “わたしの兄弟たちよ。このようなわけだから、預言することを熱心に求めなさい。また、異言を語ることを妨げてはならない。” (コリント人への第一の手紙 14:39) しました。
聖徒の皆さんはパウル使徒のこのような願いと感謝と命令に深く共感しながら異言言う有益を精一杯に享受するように願いします。